

質問者氏名 竹 村 ゆうい

目 安 時 間 30分

1 命を救う、24時間利用可能なAEDを設置せよ

病院外での突然の心停止で年間7万人が亡くなっています。これは交通事故死の約1.5倍の人数で、毎日200人弱の方々が亡くなっていることとなります。119番通報をしてから救急車が到着するまでの時間は約8.5分。3分以内に除細動ができれば生存退院率は70%ですが、8分を超えると生存退院率は20%以下となってしまいます。心停止の状態から命を救うには1分1秒を争うことから、1人でも多くの命を救うためには市民によるAED使用が絶対に必要です。

医療従事者でなくてもAEDを使用できるようになったのは2004年7月のことで、この15年でAEDは急速に普及してはきましたが、2016年に日本で心停止時点を目撃された総数25,569件のうち市民のAED実施率は1,204件4.7%しかありません。いつでも、どこでも、だれでも、AEDは必要になります。

もしも自分や家族や友人が心停止してしまった場合、運良く4.7%に入らなければほとんど助からないと言えますし、逆を言えば、AEDの普及と実施率の向上によってさらに年間数千人を助けることができます。

AEDの設置数が増えてきた、その次のステップは、AEDをわかりやすい場所に設置することです。突然の事態でも、「AEDはあそこにあるはずだ」と区民の誰もがすぐ思い浮かぶ場所にAEDが設置していなければ、救えるはずの命も救えなくなってしまいます。

- (1) 目黒区とセブン-イレブン・ジャパンとの包括連携協定による連携強化で、区内セブン-イレブン店舗に24時間利用可能なAEDを設置せよ。

(2) AEDの設置経費をクラウドファンディングで募り、区民と一体となって命を救う取り組みを進めよ。

2 目黒区立小学校の児童が主体的に区立中学校を選択するような中学校の魅力づくりについて

平成29年度の目黒区立小学校から目黒区立中学校への進学者数は813人、進学率は57.4%です。57.4%という進学率は、過去10年間で最も低い割合です。

こうした現状を変えていくヒントを探するため、東京都神津島村を訪れました。

神津島村には、保育園1園、小学校1校、中学校1校、都立高校1校があります。神津島村の人口は10年程前から2,000人を割り込み、神津中学校から都立神津高校への進学率も平成27年には42.9%に落ち込み、都立神津高校の存続が危ぶまれていました。

そこで、神津島村と都立神津高校は、村と高校の活性化と生徒の学力向上を図るために島外生徒受入事業を導入し、平成28年度より都立神津高校に東京の内地からの島留学生を受け入れ始めます。すると効果はすぐに現れ、神津中学校から都立神津高校への進学率は平成28年度に52.9%、平成29年度に70.6%、平成30年度に77.8%と急激に上昇し、それに連れて都立神津高校の進路状況も大きく変わり、大学進学率が35%前後で推移していたのが、平成30年度には大学進学率75%にまで上がっています。

内地から島留学で神津島にやってきた生徒にとっては、それまでの生活環境と大きく異なる大自然の中での生活に刺激を受け、島で暮らしてきた生徒にとっては、内地からやってきた生徒たちから様々な情報を含めた刺激を受け、都立神津高校での学校生活に活気と魅力が増していく相乗効果をもたらしていると考えられます。

目黒区と神津島とでは環境も生活スタイルも大きく異なりますが、目黒区にも気仙沼市・角田市・金沢市といった友好都市があり、それらの都市を目黒区の重要な教育資源として活用することが可能です。

神津島での島外生徒受入事業での効果を目黒区の区立小・中学校に置き換えてみると、目黒区立学校の児童・生徒と友好都市の児童・生徒と

の教育的な交流を進めていくことにより、生活環境や授業スタイルが異なる双方の学校間での情報共有や交流が進み、児童・生徒の学びへの姿勢が変わり、さらには交流した自治体・地域への将来的な貢献に繋がっていくことも期待できます。

それが目黒区立学校の魅力づくりにもなり、目黒区立小学校の児童が主体的に区立中学校を選択することにも繋がっていくのではないのでしょうか。

目黒区にある重要な資源である友好都市との交流を目黒区の学校教育に組み込み、目黒区ならではの特色ある新たな教育スタイルの確立で目黒区立学校の魅力づくりをさらに進めていくべきと考えますが、伺います。

質問者氏名 たぞえ 麻 友

目安時間 30分

1 保育の質を向上させるために

待機児童ゼロに向け、区には急ピッチで保育園整備を進めていただいている。一方で、様々な運営事業者による多様な保育が展開されている。保護者にとっては、保育士の体制について、また保育の内容について、自分の子どもが通う保育園が行っていることは正しいのか、そうでないのか疑問に思うことがある。良し悪しの判断ができない中、もやもやした気持ちで過ごしている。

また、保育園を利用している保護者も、保育園を利用する上でのルールやマナーが緩んでいる側面がある。保育園が増える中、事業者と利用者、どちらも守るべきことを明確にする必要がある。

- (1) 以前、小規模保育園を利用されている保護者向けのガイドブック作成について提言をしたが、この取り組みの進捗を伺う。
- (2) かねてより、議会から「保育の質」について多々質問があった。それらを受けて「保育の質ガイドライン」の策定に向け、検討が進められているはずだ。「保育の質ガイドライン」に加え、区が把握している保育園の監査や指導の状況を公表してはいかがか。例えば、東京都

が公表している認可外保育園を対象とした「東京都による立入検査結果」のように、見える化することについて伺う。

2 目黒虐待死を受けての児童虐待防止に向けた提言

【パネル使用】

平成30年3月目黒区で起きてしまった、5歳の女の子の虐待死事件は、多くの方を深い悲しみで覆った。そして、先月24日、千葉県野田市で虐待死事件が発生してしまった。目黒虐待死事件については、その後の検証で、香川県と東京都の児童相談所同士の引継ぎが不十分であったことなどが防ぐことができなかった要因として挙げられている。しかし、「目黒虐待死」という言葉で報道されていることから、目黒区の問題だと思われることがある。

「目黒虐待死」という名前を背負っている目黒区において、「児童虐待のない目黒を実現するため」の取り組みについて伺う。厚労省が行っている「愛の鞭ゼロ作戦キャンペーン」を目黒区でも普及・啓発してはどうか。

3 屋外の受動喫煙への対応

【パネル使用】

公園と路上の喫煙について伺う。

目黒区の児童遊園については、既に禁煙にしていること、存じている。しかし、実態として、喫煙スペースとして利用されていることもある。児童遊園の禁煙の周知、そして公園の禁煙についても早期に取り組んでいただきたい。また、区民の方からいただくご意見に、路上喫煙についてがある。千代田区や新宿区、渋谷区、豊島区などは、歩行喫煙や路上喫煙について区全域で禁止をしている。

目黒区では、「目黒区ポイ捨てなどのないまちをみんなで作る条例」において、路上喫煙禁止区域を指定することを定めているが、屋外の受動喫煙防止のために目黒区として区域の拡大や、指導員の配置などの防止策の拡充について見解を伺う。

質問者氏名 鈴木 まさし

目安時間 55分

1 国家公務員駒場住宅跡地の活用について

国家公務員駒場住宅跡地は、用途地域制限や高さ制限等の制約がある中で、駒場地域の良好な住環境を保全しながら目黒区の課題解決、地域の課題解決につながる活用とし、施設等を運営する民間事業者の参入が可能な実現性の高い計画としなければならない。今後、どのように地域住民の合意形成を得ながら整備を進めていくのか伺う。

2 新たに進めているコミュニティ施策における町会・自治会の人材確保と加入促進支援について

平成29年12月に「コミュニティ施策の今後の進め方」を策定し、町会・自治会に対しては人材育成や加入促進を目的とした取り組み、住区住民会議との連携を推進しているが、区はどのように支援していくのか伺う。

3 ペット防災手引きの啓発について

環境省のガイドライン改訂を踏まえて、ペットの「同行避難」と「同伴避難」の明確化、ルールに関するペット防災手引きを策定し、飼い主と自主防災組織に啓発していく必要があるが方針を伺う。

4 落書きのないまちづくりについて

目黒区では清掃協力会による区内の落書き実態調査を行ったが、現状をどのように把握し、落書き対策は警察や住民任せではなく、区としてもどのような対応が必要と認識したのか伺う。

質問者氏名 川原 のぶあき

目安時間 40分

1 脆弱化する社会における防災・減災対策について

(1) 受援力向上への取り組みについて

ア 災害時相互援助協定を結ぶ自治体を増やす考えがないか区の見解を伺う。

イ 本区における災害時受援応援計画策定について区の見解を伺う。

(2) 災害関連死を防ぐ対策強化について

ア いつ発生してもおかしくない災害に備え一刻も早い避難所の環境改善が急務と考えるが、区立小・中学校体育館への冷暖房整備に関する区の整備方針について伺う。

イ 避難所における災害関連死を防ぐためには、雑魚寝状態など劣悪な環境を改善すべきとの指摘がある。避難所の雑魚寝解消のため、段ボールベッドを備蓄する考えがないか区の見解を伺う。

2 子どものいのちを守り、育ちを支える施策の充実について

(1) 母親の孤立を防ぐ切れ目ない子育て支援策について

ア 子育て世代包括支援センター設置による効果について区の見解を伺う。

イ 来年度から訪問型の産後ケア事業を実施する予定であるが、対象者数、選定方法など区の実施方針について伺う。

ウ 産後ケア事業に関して、利用者の目線で考えれば「宿泊型」や「日帰り型」など複数の選択肢を設けるべきと考えるが区の見解を伺う。

(2) いのちの尊さや家族への感謝、子育ての喜びを育むため、区立中学校での「赤ちゃんふれあい事業」の実施について教育委員会の見解を伺う。

質問者氏名 田 島 けんじ

目 安 時 間 4 5 分

1 目黒区の国内友好都市との今後の取り組みと方向性に向けて

(1) 気仙沼市の復興状況と目黒区の支援体制について伺う。

(2) 気仙沼市との今後の交流について伺う。

(3) 震災の際の原発事故により被害が大きかった角田市の復興状況と、今後の目黒区との交流の取り組みについて、角田市の福島原発事故の影響を踏まえた学校間交流について伺う。

(4) 金沢市との今後の交流について、友好都市締結後の交流事業の総括と伝統文化・芸能の交流事業について伺う。

- 2 目黒区の国外友好都市と関連都市の今後の国際交流事業について
 - (1) 国外の友好都市としては、北京市東城区が唯一の友好都市であるが、今後の交流事業について伺う。
 - (2) 今年第3回を迎える三か国・三都市、目黒区・東城区・中浪区の中学生交流スポーツ大会について総括と今後について伺う。
 - (3) 韓国ソウル市中浪区と友好都市に向けた覚書を締結しているが、今後の友好都市に向けた進捗状況について伺う。
 - (4) 昨年4月に在目黒区のポーランド大使館を通じ、国際交流議員連盟にて、超党派による訪問団を結成し目黒区議会超党派7名でポーランドの首都ワルシャワ市及びポズナン市を訪問した。帰国後報告会を開き、区長部局並びにポーランド大使館にも報告させていただいたが、今後の大使館を通じてのポーランドとの交流事業について伺う。
- 3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた目黒区独自の事業について
 - (1) パブリックビューイングなどで、区民が共に感動を共有できる事業について伺う。
 - (2) 目黒区内の聖火リレーの中継点などを利用して、独自で桜のモチーフ等を使った目黒区の特徴を全国各地にアピールできるパネル、並びに東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の記念造形物等を作り、SNSにて拡散をさせてはいかがか、伺う。

以 上